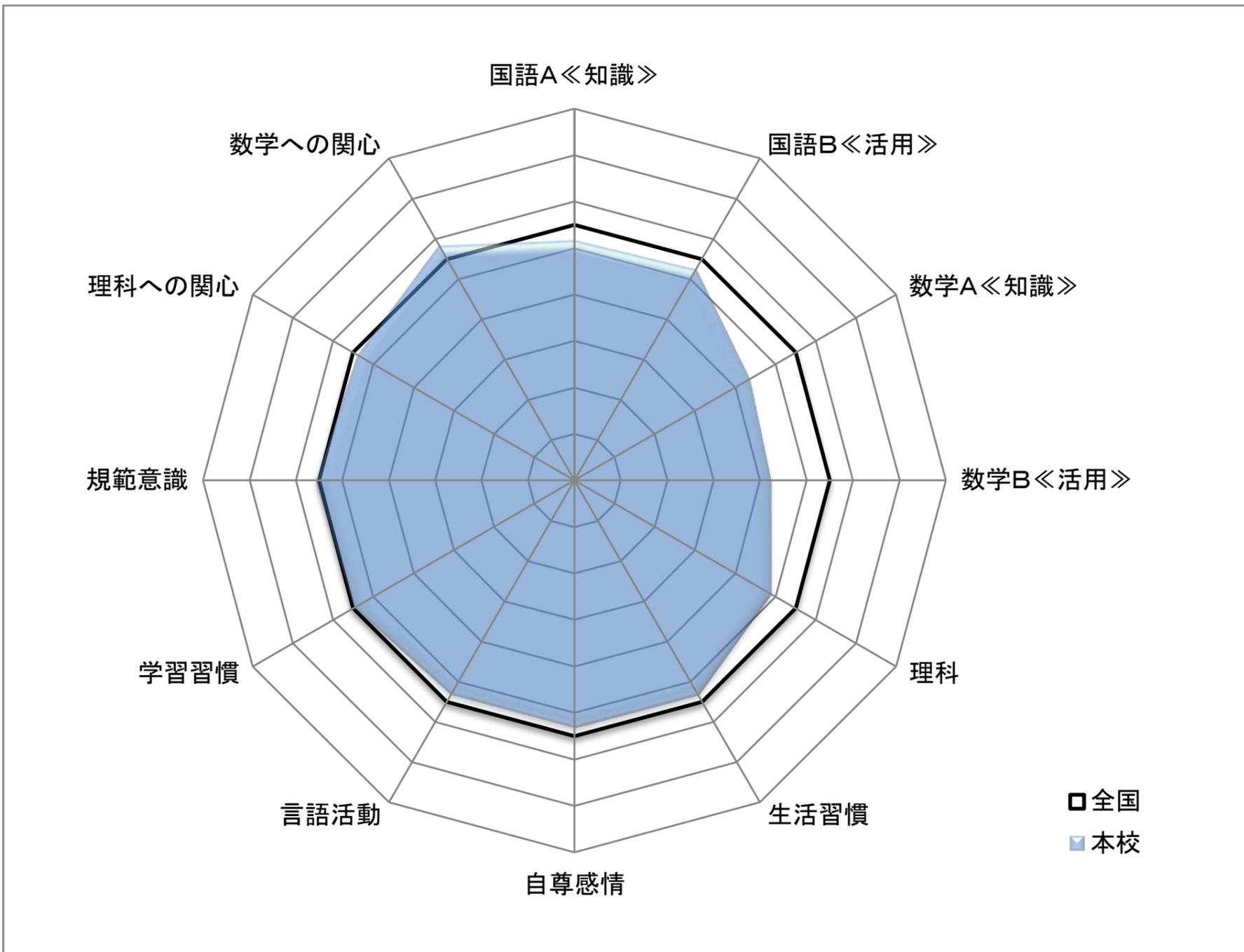


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

自尊感情などの質問項目は昨年度よりも多少下回っているが、規範意識、学習習慣、教科への関心については、全国平均との差はあまりない。むしろ、学習の方が改善しなければならない部分が多々存在する。基礎、基本の部分はまだまだ定着していないために、全国平均との隔たりが大きい。引き続き、学習の定着をいかにして行うかがポイントとなってくる。

《授業改善のポイント》

【国語】国語は、理系科目よりも全国平均のとの差は小さいものの、平均に達していないという現状がある。書くことにおいては、論点を明確にし、わかりやすく書けるよう指導する。また、読むことについては、朝読書の活用、ビブリオバトルなどの他人の意見を聞き、自らの中で要約できるように指導する。
 【数学】数学という教科に関心や意欲はあるものの正答率に結果がともなっていない。基礎学力がしっかりと定着していないので、計算ミスがでたり、式や図、グラフの意味するところを理解することが苦手である。また、数学の活用では、文章が長く、読むことをあきらめたり、意味が理解できなかったりと手が出せないのが現状である。意欲は持ち合わせているので、日々計算ミスをなくすような取り組みを行って行きたい。
 【理科】数学同様、全国平均との差は大きい。理科という教科への関心はあまり差はないが、理科が社会に役立つか、理科を活かした職業へ就きたいかという質問に対しての肯定的な意見についての割合は低い。まずは、理科と社会とのつながりに興味を持てる授業展開に心がける。

《チャートの特徴》

規範意識、学習習慣、言語活動、自尊感情、生活習慣などの質問項目については全国をやや下回っているが、昨年と大きな変化はない。また、昨年同様、理系科目への関心は高い。しかし、正答率の結果は著しく悪く、数学Aは、全国平均より、-15.1%、数学Bは-11.9%と昨年と比較しても、1割程低い結果となった。また、理科も全国平均より、-8.1%と差が大きい。反面、国語Aは全国平均より、-5.1%、国語Bは-3.2%と差は小さい。しかし、全国平均を上回った教科は一つもなく、それぞれの教科の指導方法を見直し、平均に近づけるよう努力する必要性が感じられる。

《家庭・地域への働きかけ》

昨年より継続して、家庭での学習の取り組みを促していきたい。また、学習向上には学校だけでなく、家庭での生活習慣などの改善も一因するので、保護者・地域と連携しつつ意識の改善に努める。